

2013 年利尻山山岳年報

岡田伸也（株式会社トレイルワークス）

三枝幸菜（環境省稚内自然保護官事務所利尻事務室）

佐藤雅彦（北海道山のトイレを考える会利尻支部）

利尻山では、利尻山登山道等維持管理連絡協議会（以下、協議会）を中心として、様々な行政機関や民間団体、ボランティアなどが協働しながら、山岳環境の課題への対処を実施している。以下、筆者らが知りうる範囲内で、2013 年の利尻山の記録をここに書き留めておく。

なお、本報をまとめるにあたり、利尻山登山道等維持管理連絡協議会事務局、利尻富士町役場、利尻町役場、利尻島自然情報センター、稚内警察署駕泊駐在所及び杓形駐在所、利尻富士町宿泊業組合などから、事業概要や統計データなどの情報提供をいただいた。この場を借りてお礼申し上げる。

1. 利尻山の登山者数

ア. 年間登山者数

どれほど多くの人が利尻山を登っているかについては、毎年、協議会がその合計人数を発表している（表 1-1）。2011 年からは集計作業のしやすさと、比較のための年度区切りの他の統計データがないことから再び集計期間を「年」に戻すこととなった。このように本表で示された数値は、集計方法や集計期間が発表年により異なるため、単純に数値を比較することはできないので注意が必要である（集計方法の変化などについては佐藤（2010）を参照のこと）。

表 1-1. 協議会によって発表された利尻山の登山者数

年	和暦	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
	西暦	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
集計期間 ¹⁾		年	年	年	年	年	年	年度	年度	年	年	年
集計方法 ²⁾		登山者数	登山者数	登山者数	登山者数	登山者数	登山者数	入山者数	入山者数	入山者数	入山者数	入山者数
人数		13242	11271	9746	9622	9765	10045	8906	6725	7047	7429	7851

1) 年：1～12 月、年度：4～翌年 3 月。

2) 登山者数：登山者カウンター入下山両方向計測値÷2（6～10 月分）＋回収済み登山計画書によって把握できた人数（4～5 月、11～3 月分）、入山者数：登山者カウンター入山方向計測値（6～10 月分）＋回収済み登山計画書によって把握できた人数（4～5 月、11～3 月分）。

そこで、本報では 2003 年からの数値比較が可能となる表 1-2 を作成し続けてきた。本表は、夏季のカウンターによる数値と冬季の登山計画書に基づく数値の内訳を示すもので、2013 年の「全期間集計」の「登山者数」については、2012 年に対して 526 人（7%）の増加が見られた。また、集計期間は 6～10 月に限定されるが、近年使われている「入山者数」の両ルート合計値の年変化をみても、2012 年に対して 416 人（6%）の増加が見られ、2009 年度から 2010 年度に起きた登

山者の大きな減少傾向は、2011 年から回復しつつあるように見える（図1）。

なお、2011 年までは山麓部（森林限界以下）における登山道補修の作業員の往来について、登山とみなすにはあまりの近距離であること、近距離であり登山道に与えるインパクトが小さいこと、また人数が特定できたこと、などの理由により、カウンター計測値からの削除を行った。2013 年は、こうした作業員往来がなかったため（「7. 環境省の直轄整備」参照）、このような処理は行っていない。

表 1-2. 年別登山者数の変化（集計日：2014 年 1 月 29 日）

年		和暦	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
		西暦	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
カウ ン タ ー (6-10 月)	入 山 者 数	鴛泊	8458	9604	8244	8671	8733	9032	8007	6357	6683*	6766	7316
		杓形	2177	1342	1120	909	920	970	817	323	312	585	451
		合計	10635	10946	9364	9580	9653	10002	8824	6680	6995	7351	7767
	下 山 者 数	鴛泊	8544	9850	8688	8715	8907	9022	8150	6378	6813*	6886	7558
		杓形	1767	1145	923	773	782	841	662	262	265	497	461
		合計	10311	10995	9611	9488	9689	9863	8812	6640	7078	7383	8019
	登 山 者 数	鴛泊	8501	9727	8466	8693	8820	9027	8078.5	6367.5	6748	6826	7437
		杓形	1972	1243.5	1021.5	841	851	905.5	739.5	292.5	288.5	541	456
		合計	10473	10970.5	9487.5	9534	9671	9932.5	8818	6660	7036.5	7367	7893
登山計画書 (1-5, 11-12 月)	鴛泊	1885	228	210	88	94	96	71	22	15	26	39	
	杓形	884	72	48	0	0	16	6	0	0	0	0	
	ほか	-	-	-	-	-	-	2	23	37	52	45	
	合計	2769	300	258	88	94	112	79	45	52	78	84	
全期間 集計	登 山 者 数	鴛泊	10386	9955	8676	8781	8,914	9123	8149.5	6389.5	6763	6852	7476
		杓形	2856	1315.5	1069.5	841	851	921.5	745.5	292.5	288.5	541	456
		ほか	-	-	-	-	-	-	2	23	37	52	45
		合計	13242	11270.5	9745.5	9622	9765	10044.5	8897	6705	7088.5	7445	7977

登山者数は従来の算出方法による。「入山者数」「下山者数」の定義のほか、推定方法などは佐藤（2010）を参照のこと。

*バッテリー切れによる欠測あり（10/5-31）

イ. 月別登山者数

登山者カウンターによる計測数のうち、上り方向の計測数を入山者数として月別にまとめた（表2）。2013 年の入山者数の月別変化を過去 4 年間と比較すると（図2）、大きな変化はみられないものの、7月の入山者数の増加が目立った。過去 2 年と比べて雪どけが早く進んだことで、6 月下旬以降、例年の花の見頃時期に利用者が

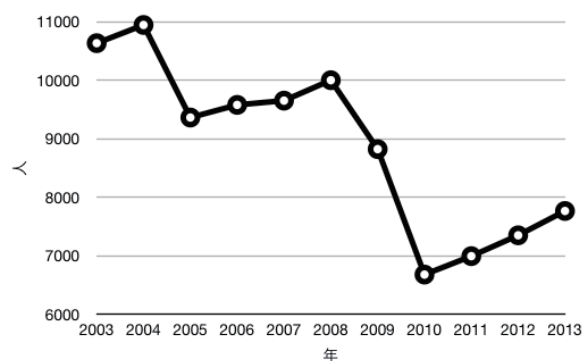


図 1. 年別「入山者数」数の変化.

戻ったものと思われる。なお、同時期に集中するツアー登山は、2009 年から 2011 年にかけて半減したが、昨年から微増に転じている。

表2. 2013 年における 6 月から 10 月までの入山者数（集計日：2013 年 11 月 7 日）

	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
鴛泊ルート	1629	2982	1736	870	99
沓形ルート	33	165	157	82	14
合計	1662 (1478)	3147 (2688)	1893 (2135)	952 (940)	113 (110)

合計の（）内の数値は 2012 年の値を示す。

ウ. 登山利用の傾向の変化

7 月の連休（7 月 14 日）に記録した入山者数 370 人は、2006 年の登山者カウンターによる入山者数の集計開始以来、1 日の入山者数として最も多い数値だった。筆者らは、当日、利用状況の把握のため、山頂付近で混雑具合等を観察していたが、20 代～30 代の若者グループ、会社の同僚との登山、親子、男女 2 人組、欧米系外国人のグループ登山など幅広い利用者層が見られた。また、聞き取りによると道内在住者が多く、会社や学校の休みを利用して利尻島に訪れたケースが目立った。これらの見聞から、道内の現役世代の登山が、夏山シーズンで唯一の 3 連休に集中したことが、当日の混雑の原因と推測された。

このような極時的集中は、登山道の侵食や拡張を起すきっかけを作りやすく、適正管理の観点からは分散を図りたい利用形態であるが、連休に利用が集中するのは全国的な傾向であり、実際には混雑を防ぐことは難しいだろう。ロープ柵による踏み込みエリアの制限や、渋滞が予想される箇所の登山道整備など、ハード面の整備で、人為影響を最小限に抑えることの方が現実的と言えるのではなかろうか。

一方、当日提出された登山計画書で把握できた人数は 140 名ほどであり、カウンターの計測値

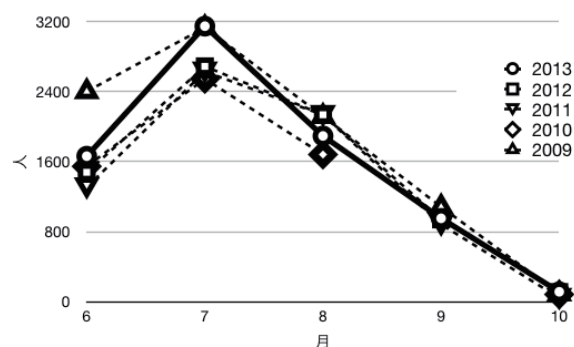


図2. 月別入山者数の変化。

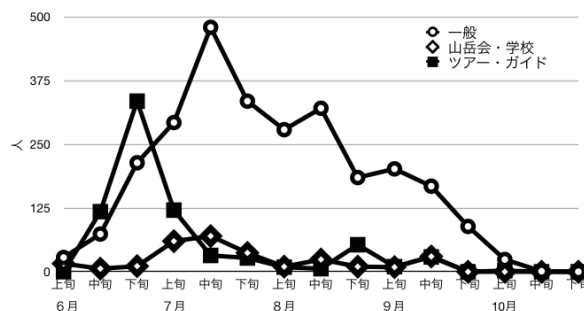


図3. 登山計画書における登山形態の旬別内訳人数。

表3. ツアー登山と個人ガイド登山のパーティ数およびパーティ人数の年変化

年	パーティ数					パーティ人数				
	2009	2010	2011	2012	2013	2009	2010	2011	2012	2013
ツアー登山	61	34	32	39	42	923	428	450	619	608
個人ガイド	13	31	36	23	30	51	150	146	107	134
合計	74	65	68	62	72	974	578	596	726	742

とは大幅なずれがあった。当日の利用状況を写した写真と提出された計画書の内容を比較すると、計画書の提出率が低いと思われるのは、外国人と、20代～40代の年代層であると推測される。利尻山では、近年、若年層の増加が目立っているが、計画書の提出が少ないため、この傾向をデータで裏付けることができていない。よりターゲットを絞った情報発信を行うためにも、今後は、若年層の計画書提出率増加を促す対策を取ることが望まれる。

2. 携帯トイレ

ア. 販売数

携帯トイレ（サニタクリーン、（株）総合サービス社製）の販売価格は島内では税込み400円で、高密封チャック×1、便袋×1が含まれている。販売は、島内各宿泊施設、商店、コンビニエンスストア、観光案内所、キャンプ場などで行われ、表4には利尻富士町及び利尻町における販売結果を示した。内訳では宿泊施設の占める割合が高いが、入手場所を複数確保することは、登山者の利便性や携帯トイレの啓蒙にも貢献しているものと想像される。一方、販売数についてはここ数年大きな増減はなく、2010年以前ほどの販売数は見られない。集計時における閉館施設の存在や、島外からの携帯トイレの持ち込みなど、いくつかその要因は考えられるが、販売数の減少の理由は不明のままで、調査が望まれる。

表4. 利尻島における携帯トイレ販売箇所別販売数（集計日：利尻富士町2014年2月10日、利尻町2013年11月13日）

年		2008	2009	2010	2011	2012	2013
利尻富士町	宿泊施設	4748	3305	2305	1976	2063	2043
	商店・コンビニ	20	350	820	210	350	260
	観光案内所	115	187	97	353	90	78
	キャンプ場	396	364	235	168	242	396
	小計	5279	4206	3457	2707	2745	2777
利尻町	宿泊施設						254
	商店・コンビニ						59
	観光案内所						1
	キャンプ場						4
	小計	578	704	254	326	503	318
計		5857	4910	3711	3033	3248	3095

イ. 携帯トイレの利用状況

携帯トイレは2000年から2005年までは無料配布を行い、2006年度から島内における販売が開始された。配布または販売実績と回収数などを表5に示した。回収率については、携帯トイレの販売数の減少時期とほぼ一致するように2010年の減少以降、約40%前後で推移している。仮に6～10月の登山者数7893名で回収された全携帯トイレ数1333個を除した場合、その数値は16.9%となる。携帯トイレ所持の有無に拘わらず、排泄を行わなかった登山者などもあることを考えると、この数値がどれだけ実際の携帯トイレの利用率に近いかは不明である。携帯トイレ普及

推進は、ある時点で目標が達成されたからといって手を抜いてよいものではない。しかし、人材や財源が限られる中、実際の利用率の推定や目標値の設定などが今後は必要となってくるのではないかと感じられた。

携帯トイレ回収ボックスにおいて、尿尿入りのペットボトルが放置されている事例が 2013 年より報告されるようになってきた。沓形では 4 例、駕泊管理棟では 38 例とされており、見過ごせない課題となりつつある。携帯トイレにかわるペットボトルの利用については、下山後に中身である尿尿を利用者本人がトイレに捨てた上で、容器を再利用、または処理するというのが基本的な使い方であろう。しかし、中身をそのままにして携帯トイレ回収ボックスに放置された場合、その処理は携帯トイレ以上の不便と不快さを処理者に与えることになってしまい、利尻山の尿尿処理作業自体への障害にもなりかねない。繰り返し使うことにより、携帯トイレ以上に「エコ」とも考えられるペットボトルの利用自体にも批判が向けられる可能性があり、本人が責任をもって中身の処理をすることが求められるとともに、その正しい利用について管理者側もきちんとした説明をしていくべきであろう。なお、現在の回収ボックスには「ペットボトルを捨てる時のお願い」の張り紙がされている（図 4）。

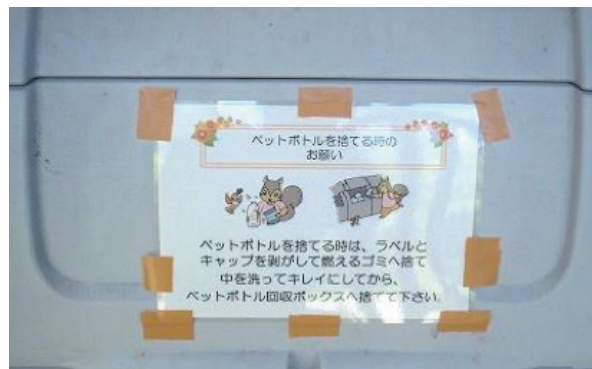


図 4. 回収ボックスに掲示されたお願い。

表 5. 携帯トイレの年別回収率（集計日：2014 年 2 月 10 日）

年		2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
配布数 ¹⁾		9517	9210	4946	5644	5857	4901	3711	3033	3248	3095
回収数	両ルート合計	2545	2429	2396	2164	3541	2759	1377	1332	1287	1333
	駕泊ルート	2424	2376	2366	2118	3490	2711	1353	1316	1253	1285
	沓形ルート	121	53	30	46	51	48	24	16	34	48
回収率		26.7	26.4	48.4	38.3	60.5	56.3	37.1	43.9	39.6	43.1

2007 年までの数値は住吉（2009）に基づく。2008 年は利尻町分を追加した新しい数値に訂正し、回収率も新たに計算した。

1) 2006 年からは販売数

3. スtockキャップ

利尻島では、植生保全や登山道浸食の軽減などのために「利尻ルール」の一つとしてストックキャップの装着を呼びかけており、島内での販売も 2007 年から実施している。販売場所としては、利尻町役場（観光協会事務所）、利尻町町営ホテル、利尻富士町の公共施設（役場、キャンプ場 2 箇所、観光案内所）、及び各町の一部の宿泊施設があげられ、2008 年からの販売数は表 6 の通りである。販売を行っている宿泊施設数は減少しており、2013 年現在、利尻町内では 14 軒中 2 軒、利尻富士町内では 26 軒中 16 軒（4 軒未回答）となっている。これは、ストックキャップの販売実績がわずかで、宿泊施設がその販売メリットを実感し辛い事が要因と考えられた。ストックキャップの販売には利尻山保全意識の高さを示す付加価値があることを含め、さらなる販売促

進を関連施設などに訴え続けていくことが今後とも必要となろう。

表6. スtockキャップ販売数（集計日：2014 年 2 月 14 日）

年	2008	2009	2010	2011	2012	2013
利尻町	22	12	0	0	11	2
利尻富士町	243	211	102	54	46	64
合計	265	223	102	54	57	66

4. 登山道における施設及び器機の設置状況

ア. 携帯トイレブース

設置場所など 2009 年からの変更はないが、いくつかの改善例や今後の課題を以下に記録しておく。

7月に、杓形 8.5 合目ブースで、壁面のカビを木材ごと研磨する作業が行われた。室内のカビは数年前からの課題事項だったが、この作業によって、今後のカビ抑制が期待される。

駕泊 9 合目ブースでは、7月に室内側のドアノブが脱落する故障があった。2日後には復旧したが、故障中は、ブースのドアが完全に閉まらない状態で使用しなくてはならず、利用者に不便を招いた。故障は、ブースの木材収縮によって閉まりにくくなっていたドアを、無理に閉じようとした事が原因と思われる。ブースはカラマツの無垢材を用いているが、施工後 5 年を経た現在も収縮を繰り返している。その都度、カンナがけをしてドアの締め具合を調整しているが、今後、同様のトイレブース設置を考えている山岳地においては、木材に収縮防止加工を施すとともに、材質やドアの開閉形式を地域環境に合わせたものに調整すべきであろう。

なお、2013 年は暑い日が続くことが少なかったためか、2012 年までのようにブース内に熱気がこもり、アンモニア臭が発生することは無かった。そのため特に臭気対策は行っていない。

イ. カウンター

前年からの変更はなく、協議会により 4 か所にカウンターが設置されている。駕泊登山口、杓形登山口、及び姫沼ポン山ルート（2 か所）の合計 4 か所における各カウンターの設置期間（データ取得期間）は、6 月 1 日から 10 月 31 日までの 5 ヶ月間である。

ウ. 標識・案内板

合目標柱の夜間視認性を増すために貼られた反射シールのうち、駕泊ルート 5 合目のものが 2012 年から剥がれかけていたため、新しいシールに貼り替えた。なお、シール剥がれは、いたずらによるものと思われた。

5. 携帯トイレ募金（林野庁環境整備推進協力金）

2004 年から駕泊管理棟近くのトイレ正面に設置されている募金箱は、携帯トイレ無料配布時には購入資金の財源の一部としてその役割を果たしてきた。2006 年からは、携帯トイレ有料化に伴

い「利尻山環境整備募金」と名称を変更し、登山道、避難小屋、携帯トイレブースの清掃活動費として集められている。集められた協力金はすべて協議会に納入されている。募金額は表7に示す。

表7. 年別募金額

年	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
募金額（5～10月）・円	116074	77688	17195	18626	23032	13599	7120	1681	10704	4537

6. 利尻山登山道等維持管理連絡協議会

本協議会は、行政機関や観光、警察、自然団体など14の組織・団体により構成され、主に登山道の維持管理事業などが協議される場である。主な事業を以下に記す。

ア. 総会開催

2013年6月14日に総会が開催され、平成24年度事業報告及び収支決算報告の後、平成25年度事業計画（案）・収支計画（案）が協議された。

イ. 環境省グリーンワーカー事業の受託業務

利尻山山頂部登山道維持補修業務が、駕泊ルート9合目～山頂（杓形ルート側合流点下部を含む）間で実施された。

ウ. 利尻山情報交換会

利尻山に関連する民間も含めたメンバーから構成される本会は、「利尻山登山利用のあり方検討会」（環境省主催）から生まれた山の情報交換の場である。2013年は2月1日、6月6日、11月29日の3回開催され、それぞれ14名、16名、19名の参加があった。議題としては、2012年度登山利用統計の報告、「利尻山登山あり方調査（H20-21）」についての検証、利尻山登山の課題、H25年度の関係機関の事業計画、利尻山コマドリプロジェクト、などの登山道の維持管理・補修等に関する意見交換のほか、「私の利尻山登山史」「山のトイレを考えるフォーラムに参加して」などの発表があった。

エ. その他

利尻ルールや危険箇所についての掲示などの普及啓発活動のほか、駕泊の避難小屋の入口扉修理（10月）も実施された。

7. 環境省直轄整備事業

2013年度は、杓形ルートの見返台登山口～8合目付近の登山道整備を予定していたが、東北の震災復興の影響から資材運搬ヘリコプターの調達が困難となり、行われる予定だった修復工事

は次年度に延期された。

その他の事業としては、登山道及びトイレブースの維持管理事業と植生復元事業が実施された。このうち維持管理業務では、鴛泊ルート及び杓形ルートの環境省直轄整備区間と、両ルートのトイレブースの維持管理事業が実施された。植生復元事業としては、鴛泊ルート9合目下部にて、木柵土留工の補修、庇状に張り出した植生の保護、2012年に敷設した植生ネットのモニタリングが行われた。

8. 登山道に関する作業・補修など

北海道宗谷総合振興局では、同振興局が管理する歩道区間のうち、鴛泊ルート3合目付近の甘露泉～ポン山分岐までの区間の傷んでいた木柵階段の補修が実施された。利尻町役場では、杓形ルートの危険箇所等の点検業務が実施され、林野庁においても登山道巡視や補修作業がシーズンを通じて行われた。

9. その他

ア. 全道一斉山のトイレデー

山のトイレを考える会利尻支部と利尻礼文サロベツパークボランティアの会により、「2013全道一斉山のトイレデー」（山のトイレを考える会主催）に参加する形で清掃登山が9月8日に実施された。15名の参加者が鴛泊ルートまたは杓形ルートから登り、それぞれのルート上の清掃活動のほか、ティッシュ痕や携帯トイレの投げ捨て数のカウント、GPSによる地点の記録を行い、山頂合流後、鴛泊ルートから下山した。本年から「トイレマナーカード」（山のトイレを考える会作製：9×5.5cm）の登山者配布も行われ、コミュニケーション作りのよいきっかけとなった。図5には当日確認された

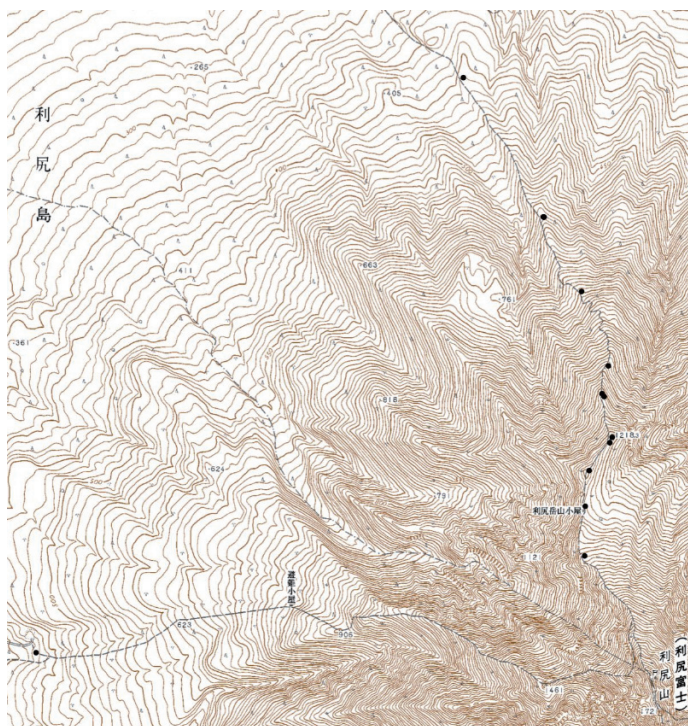


図5. ティッシュ痕が発見された場所(調査日:2013年9月8日)

ティッシュ痕(●)の位置を示したが、前年と比較して数も少なく、4～5合目付近においても少数の痕跡が見られるのみだった。また、携帯トイレの投げ捨ても見つからなかった。これらは普及啓蒙活動の成果とも言えるが、水溶性ティッシュやティッシュの持ち帰りなどのマナー向上に伴い、痕跡を残さない排泄方法に関しては認識しづらいため、今後はティッシュ痕以外にもトイレマナー向上の目安となるような新たな調査方法を考え、並行して行っていく必要がある。

イ. リシリヒナゲシ保全

自生種の保全対策として、DNA分析により個体識別された近縁種の除去作業が7月27日、8月1日、8月8日に鴛泊ルート2箇所で行われ、228株が除去された。作業は環境省からのグリーンワーカー事業を受託した利尻島自然情報センターが担当し、4名が作業にあたった。本年も昨年に引き続き、一部の播種地（前年と同一場所）で栽培ヒナゲシの実生3群17個体が確認され、除去されたことから、引き続き細かなモニタリングと頻繁な除去が必要となった。栽培ヒナゲシの実生が確認される半面、昨年同様に登山道整備による木柵階段や木柵土留め付近に新たなリシリヒナゲシ個体が数個体確認され、今後の自生地保全の検討に有効な手がかりを得ることとなった。

ウ. 事故・遭難

2013年は、5件の救助事案が発生したが、そのうち、ヘリによる救助につながったのは、一件（表8の7/2の事例）のみで、他は自力下山可能だったものや、連絡の行き違いによるものだった。このうち、連絡の行き違いが原因で救助隊の出動などに至った表8の7月下旬及び9/25の事例では、いずれもスマートフォンのバッテリー消耗を抑えるための措置が裏目に出て、連絡不通となり

表8. 2013年遭難救助出動実績

月日	救助出動	通報時の 態様	救助 地点	年 齢	性 別	住所	パー ティー 人数	組織/未 組織の 区分	概要	登山届 提出
7/2	稚内警察署鴛泊駐在所・仙法志駐在所・鬼脇駐在所、利尻富士町山岳遭難救助隊	左足骨折	鴛泊 6.5合目	71	男	宮城	3	未組織 (個人)	鴛泊ルート7合目で転倒による事故発生。6.5合目からヘリ搬送により救助。	○
7月 下旬	救助出動なし			70 代	男	東京	1	未組織 (個人)	鴛泊ルート。宿の送迎時刻に戻らず、宿から通報。鴛泊登山口で救助に向かう時に本人が自力下山（19:00）。道に迷い下山時刻が遅れたこと、下山後のタクシー連絡のため携帯電話のバッテリー消耗を抑えるために通話をしなかったこと、が原因とみられる。	×
8月 月上旬	救助出動なし			20 代	女	台湾	1	未組織 (個人)	鴛泊ルート。宿の送迎時刻に戻らず、宿から通報。本人は既下山し、鴛泊温泉で入浴しており、温泉施設で発見された（21:00）。日本語は通じるが、携帯電話は海外仕様のため、国内では使用不可であったことが、原因となった。	×
9/17	稚内警察署沓形駐在所、利尻町役場	ケガなし		32	男	神奈川	1	未組織 (個人)	沓形ルートを登山中に、9合目上部の「親不知子不知」でルートを外れて上部のガレ場を登り、行き詰まった所で道迷いに気付き、地元タクシー会社に連絡。その後、タクシー会社から利尻町役場を経由して、警察に通報（13:40）。地元救助員による電話誘導で、正規ルートに戻り、自力下山（17:10）したため、要請された道警ヘリは途中で引き返した。	○
9/25	稚内警察署鴛泊駐在所・鬼脇駐在所	ケガなし	鴛泊 避難小屋	21 20	男	北海道	2	未組織 (個人)	鴛泊ルート。22:20に宿から下山していないことが通報される。0:00から救助に向かい、避難小屋で無事に2名を発見。本人たちは宿との連絡で、避難小屋に宿泊することを伝えていたといい、双方の連絡の行き違いが原因となったと想像される。なお、登山者は携帯電話を所持していたが、いわゆる「機内モード」を使用し、通話ができない状態になっていたため、連絡がつかない状態となっていた。	×

※上記表は、稚内警察署鴛泊駐在所および沓形駐在所からの聞き取りによる。

救助騒動につながったものであった。一方、9/17の事例では、道迷いから正規ルートに復帰するために、スマートフォンを用いて、平地にいる救助隊からの指示で自力下山を果たした。7/2の事例でも、登山者との連絡手段は、やはり携帯電話で、緊急連絡手段としての役割の重要性がますます高まっていると感じさせる。7月下旬と9/25の事例では裏目に出たものの、登山中はバッテリーの温存を図り、予備バッテリーを持つなどの対策を持つことが重要だろう。

なお、今回の遭難救助事案について情報を提供頂いた地元駐在所では、下記の対策を実施し、安全登山のPRに努めている。今後については、まずは登山届けをきちんと出してもらいということ、杓形駐在所では、親不知子不知での迷う事例が多いので、なんらかの案内や対策があるとよい、とのことだった。

- ・稚内警察署地域企画課による「山岳パトロール」として、8/23に鴛泊登山口と山頂にて安全登山の啓発チラシなどの配布を実施。
- ・「駐在所だより」などで、島内4地区の駐在所ごとに山の安全登山についての周知を実施。
- ・鴛泊管理棟の掲示板で、随時、注意喚起の登山情報を提供。

エ. 登山計画書

登山計画書は、救助要請が発生した場合に、救助側が、登山者の緊急連絡先や、装備、ルート等の確認を行うために重要な意味を持つ。しかし、提出された登山計画書を、どの機関が回収し、記載内容について、どの程度の集計がなされているかは、登山道の位置する市町村や管轄官庁の違い等、地域ごとに異なる。そのため、登山計画書の集計結果について地域間の比較分析を行う場合は、これら地域ごとの様々な違いについても理解しておかなければならない。今後、他地域との比較分析等に利尻山のデータが用いられることも想定して、利尻山における登山計画書の発行から集計、保管までの一連のシステムと、その特徴について以下に記録しておく。

- (1) 発行：協議会では、独自様式の利尻山登山計画書を発行している（佐藤、2010；佐藤・岡田、2011）。
- (2) 提出：利尻島内では、全ての宿泊施設に協議会が発行する登山計画書が備え付けられており、登山者は、自分の宿で計画書を記入することができる。さらに、鴛泊地区の宿泊施設の場合、宿に計画書を預けることができる。これによって提出の利便性が向上するため、結果的に提出率の向上をもたらしていることが予想される。もちろん、任意の様式で書かれた計画書を提出することもできるし、事前に管轄の警察署に送付している場合は、宿泊施設で記入する必要はない。また、両登山口に協議会の発行する登山計画書と提出箱が置かれており、ここに提出することもできる。なお、利尻山の登山道は、国有林内にあるが、林野庁の設置する入林届出箱はない。
- (3) 提出された登山計画書の収集：提出された計画書の収集方法は、計画書の提出（預け）先やルートによって異なる。鴛泊の場合、宿泊施設に預けられた計画書は、そ

の後、宿泊施設が駕泊駐在所に提出するが、提出は、緊急時を除いて宿泊施設の任意に任されているため、警察署の手元に集まる計画書の数、実際に宿泊施設に提出された計画書の数より少ないと考えられる。登山口にて提出された計画書は、駕泊ルートの場合、登山口の町営キャンプ場管理人が、毎日、駕泊駐在所に届け出ている。一方、杓形ルートの場合は、宿泊施設で記入した計画書でも、登山口の提出箱に投函しなければならない、利尻町役場が収集及び保管を行なうため、収集漏れが起きることはない。また、北海道警察の稚内や札幌方面に直接送付された計画書は、すべて島内の駕泊駐在所にファックスで転送されるため、これらも収集漏れは起こらない。

- (4) 集計：駕泊駐在所と利尻町役場のそれぞれに集められた計画書は、協議会員の環境省稚内自然保護官事務所が一旦預かり、個人名や連絡先などの個人情報を除いて、年齢層や都道府県などの情報を集計している。
- (5) 保管：データ入力を終えた計画書は、駕泊駐在所と利尻町役場のそれぞれに返却され、そこで、一定年数保管される。

オ．利尻ルールの普及啓発

利尻ルールの普及推進については、その停滞と対策の必要性が指摘されていた（佐藤ほか、2013）。これを受け、2013年7月には、協議会員の利尻町役場と環境省が島内宿泊施設を戸別に訪問し、利尻ルール普及の協力依頼を行なった。また、登山ツアーを実施する旅行会社に対しても、利尻ルールを紹介するチラシを送付し、ツアー利用者への周知を依頼した。

参考文献

- 住吉直人，2009．2008 利尻山のトイレ対策について．山のトイレを考える会（編），第 10 回山のトイレを考えるフォーラム資料集：29-33．山のトイレを考える会．
- 佐藤雅彦，2010．2009 年度利尻山山岳年報．山のトイレを考える会（編），第 11 回山のトイレを考えるフォーラム資料集：73-81．山のトイレを考える会．
- 佐藤雅彦・岡田伸也，2011．2010 年度利尻山山岳年報．山のトイレを考える会（編），第 12 回山のトイレを考えるフォーラム資料集：37-46．山のトイレを考える会．
- 佐藤雅彦・岡田伸也，2012．2011 年度利尻山山岳年報．山のトイレを考える会（編），第 13 回山のトイレを考えるフォーラム資料集：19-28．山のトイレを考える会．
- 佐藤雅彦・岡田伸也・山本貴之，2013．2012 年利尻山山岳年報．山のトイレを考える会（編），第 14 回山のトイレを考えるフォーラム資料集：10-21．山のトイレを考える会．